

クラス番号	624	担当教員名	宇佐美 千鶴
テーマ	高齢者の地域生活支援について考える ー本人が決めるプロセスを支える連携と協働ー		
著書・論文 研究課題等	【著書】「チームの連携力を高めるカンファレンスの進め方」（第3章担当執筆、日本看護協会出版会 2010）、「ケアマネジメントの実務」（第2章第5、第6担当執筆、新日本法規 2012） 【論文】「終末期ケアにおける多職種連携・協働の実態ー従来型特別養護老人ホームとユニット型特別養護老人ホームの異同を通して」日本福祉大学社会福祉論集、第130号 167ー190, 2014 【研究課題】 ・ケアマネジメント研修プログラムの作成とその評価の検討 ・ケースメソッド教法を用いた多職種連携教育の学習評価の検討		
ゼミナール概要			
キーワード：利用者・患者主体、地域福祉、ケアマネジメント、連携と協働、終末期ケア、			
【達成目標】 2年間を経て、高齢者が地域で暮らす中で生じる様々な葛藤や課題を、ソーシャルワークの視点から捉え、その対処策を具体的に考えて、行動できる力を獲得することを目指します。 具体的には、①支援の主体と対象を理解すること、②ケアに関わる団体・組織・専門職の役割と実際を理解すること ③地域ケアネットワークの現状と課題を理解すること、です。			
【内容】 このゼミでは、地域で暮らす高齢者や障がい者の生活をどうしたら支えることができるかを考えます。主にケアマネジメントの技法を中心に扱いますが、私は「技法」は「価値」とつながったときに、はじめて実践に活かされると考えています。文献学習やディスカッションから習得した知識や培った価値は、実践でどのようにつながっていくのかを、事例検討等をくり返す過程を通して、丁寧に確認したいと思います。 地域生活を支援するには、専門職一人ですることには限りがあり、いろいろな機関の多職種・同職種の知識や知恵、力を借りることが必要になります。連携や協働する力を習得するため、まずは、自分が伝えたいことがきちんと伝えられる「伝わる表現力」と、状況や環境の変化をくみ取る「観察する力」を高めることを意識して行います。 地域生活を支えるためには、キャベツ一玉の値段から活用できる様々な制度まで興味や関心をもつことが大切です。好奇心豊かに、広く物事を考えられるよう工夫していきたいと考えています。			
【授業計画】詳細はゼミ生と相談して決めます。 ○3年前期では、上記のテーマに関する資料や文献を読み、基礎知識の習得を目指します。方法は、毎回報告者が資料や文献の要約を発表し、それに基づき話し合いを行うことで知識を深めます。その際、レジュメの書き方や問いのたて方を学びます。 ○3年後期では、実習で体験した事例やケース教材（地域）をとおして、ソーシャルワークの視点からディスカッションして問題解決能力を高めます。その際、知識や価値は実践にどのようにつながるのかを確認します。 ○4年生では、卒業論文の執筆と国家試験に向けた準備を行います。後期までに卒業論文を提出することを目指し、その後は国家試験などに集中したいと思います。卒論の中間発表を予定し、皆で感想等を伝え合います。 ○この他、ゲスト講義や地域で暮らす当事者のもとへの訪問、そして地域の様々な機関（施設や事業所、行政など）に赴く見学やインタビュー調査等のフィールドワークを予定しています。			
担当教員からのメッセージ			
ゼミの場は、相互に創り上げるものですから、主体的な参加を求めています。ゼミ生間、ゼミを通して出会う人々のさまざまな価値観にふれて、ともに成長を育みたいと思います。 わからないことをわからないと聞ける雰囲気づくりを大事にしたいと思っています。はじめは、誰でも自信はないものです。臆することなく、コツコツと努力を積み重ねて力をつけていきましょう。 「厳しさ」と「楽しさ」のメリハリをもって、充実した2年間を過ごして欲しいと思います。			